

◎診療の詳細

注: PEGカテーテル事故抜去時は①カテーテルは捨てない。②可及的速やかに同サイズの尿道カテーテルを8cm挿入、バルーンを膨らまし、瘻孔を確保。造設・交換施設に連絡ください。
注: 造設・交換時より診察所見が著明に悪化する場合。総合判定が重度の栄養障害に至る場合は速やかに造設・交換施設に連絡ください。

【診察(身体症状)】 皮下脂肪消失: 0 +1 +2 +3 筋肉消失: 0 +1 +2 +3 下腿浮腫: 0 +1 +2 +3 仙骨部の浮腫: 0 +1 +2 +3

【PEG観察】 PEGアセスメントハンドブックにて

【口腔観察】 口腔の汚染状態を評価: なし +1(軽度汚染) +2(高度汚染)

【床上嚥下評価】 7. 6. 5. 4. 3. 2. 1. (必ず記載してください)

7 正常範囲	摂食・嚥下に問題なし。
6 軽度問題	摂食・嚥下に軽度の問題あり、若干の食事形態の工夫が必要。
5 口腔問題	主に準備期や口腔期の中等度から重度の障害があるもの。咀嚼に対して食事形態の工夫が必要。
4 機会誤嚥	通常の摂食方法では誤嚥を認めるが一口量の調節、姿勢効果などで、水分誤嚥も十分防止できるレベル、適当な摂食・嚥下方法が適応されれば、医学的安定性保たれる。
3 水分誤嚥	水分誤嚥を認め、誤嚥防止法の効果は不十分であるが、食物形態効果は十分に認めるレベル。嚥下食・適当な摂食・嚥下法が適応されれば、医学的安定性は保たれる。
2 食物誤嚥	誤嚥を認め、食物形態効果が不十分なレベル。水・栄養管理は経管栄養法が基本となる。経管栄養法を行っている限り医学的安定性は保たれる。
1 唾液誤嚥	常に唾液も誤嚥していると考えられるレベル。持続的な経管栄養法を必要とするが、誤嚥のために医学的安定が困難。合併症のリスクが高く、直接的訓練法も困難なレベル。

【身体測定】 * 体重測定が困難な場合は BMIを18と仮定し⇒ $18 \times \text{身長(m)} \times \text{身長(m)}$ にて目標体重を設定する！
6ヶ月で10%以上の体重減少 ⇒ 中等度以上の栄養障害
2週間で2%以上体重減少 ⇒ 重度の栄養障害(急性)

BMI (body mass index) = $\text{体重} / (\text{身長(m)} \times \text{身長(m)})$ 18.5未満: やせ, 18.5-25.0: 普通, 25.0以上: 肥満
理想体重 (IBW: ideal body weight) = $22 \times \text{身長(m)} \times \text{身長(m)}$
%理想体重 (%IBW) = $\text{体重} / \text{理想体重} \times 100$ 80-90: 軽度不良, 70-80: 中等度不良, 70以下: 高度不良

【血液検査】
《免疫状態の指標》
総リンパ球数 (TLC: total lymphocyte count) = $\text{白血球数} \times \% \text{リンパ球} / 100$ 1800以上: 基準値, 1799-1500: 軽度不良, 1499-900: 中等度不良, 900未満: 高度不良

《栄養状態の指標(予後推定栄養指数)》
O-PNI: Prognostic Nutritional Index (小野寺) = $(10 \times \text{血清アルブミン}) + (0.005 \times \text{総リンパ球数})$ 45以上: 基準値, 40-45: 軽度不良, 40未満: 中等度以上不良
アルブミン3.5以下の低値になると乖離幅が0.3となり、BCP改良法でアルブミン3.5以下はBCG法に直すと+0.3が推定値になります (O-PNIについてもアルブミン3.5以下では+3)

【判定結果】 身体症状・身体測定・血液検査から総合的に栄養評価: 栄養状態良好 中等度あるいは潜在的に栄養状態不良 重度の栄養障害

【必要エネルギー量・必要水分量の算出】
Harris-Benedict式による安静時基礎代謝量(BEE)の算出 男性式: $66.47 + 13.75 \times \text{体重(kg)} + 5.003 \times \text{身長(cm)} - 6.775 \times \text{年齢}$
女性式: $655.1 + 9.563 \times \text{体重(kg)} + 1.850 \times \text{身長(cm)} - 4.676 \times \text{年齢}$

必要エネルギー量 (Kcal / 日) = BEE × 活動係数 × 傷害係数

必要水分量 (ml / 日) = 現体重 × 35

活動係数	寝たきり(意識低下状態): 1.0, 寝たきり(覚醒状態): 1.1, ベット上安静: 1.2, ベット外活動: 1.3-1.4, 一般職業従事: 1.5-1.7	
傷害係数	何もなければ: 1.0 体温: 1.0°C上昇で0.1ずつUP (37°C: 1.1 38°C: 1.2 39°C: 1.3 40°C: 1.4) 感染症: 軽度: 1.2 感染症: 高度(DIC、敗血症): 1.5	COPD: 1.1-1.3 褥瘡: 1.2 癌: 1.1-1.3